

写真を撮影する

光やアングル、構図を意識して撮影しよう。

●撮影機器の取り扱い

タブレット端末や三脚の取り扱いを知ろう。



タブレット端末
撮影と編集を行うことができる。撮影するときは、両手で持つと安定する。



三脚
固定すると、手ぶれが起きない。撮影場所や場面にに応じて使おう。

⚠注意

撮影禁止の場所や他の人の顔を無断で撮ることは、プライバシーなどの侵害になる。また、他の人が撮影した写真や映像、文章や絵画、音楽などには、つくった人の著作権がある。先生の指示に従い、ルールを守って作品の制作や発表をしよう。

●光の向き

光の方向や強さによって、被写体（撮影の対象）の見え方が変わる。

順光



被写体の正面から光が当たる位置で撮影。顔や体の形がはっきりと、色も鮮やかに写った。

逆光



被写体の後ろから光が差す位置で撮影。顔や体の正面を撮影後に明るく調整し、光に包まれたような雰囲気にした。

斜光



被写体に斜めから光が当たる位置で撮影。明るい部分と影の部分の差異で、立体的な写真になった。

●アングル

見慣れたものでも、アングル（見る角度）を変えると全く違う印象になる。

真上



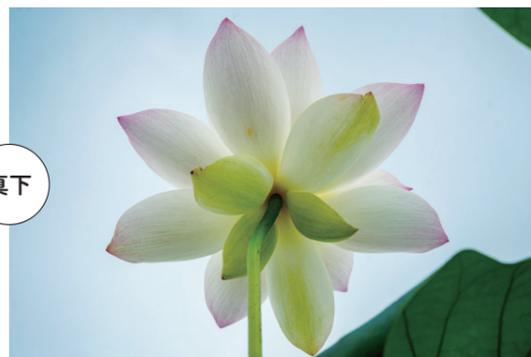
真上から見下ろすように撮影。ハスの花は上に向かって咲くため、正面から顔を撮るかのような迫力が出た。

真横



真横から撮影。花が何重にも重なって開き、落ちていくような動きの感じられる写真になった。

真下



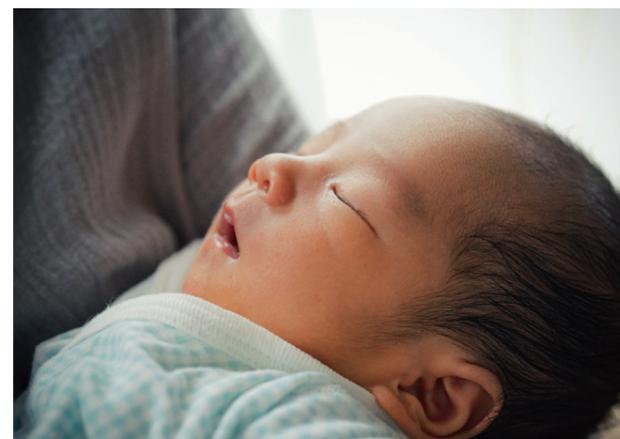
下から見上げるように撮影。まるで自分が小さくなったかのような、不思議な風景を写した写真になった。

●構図

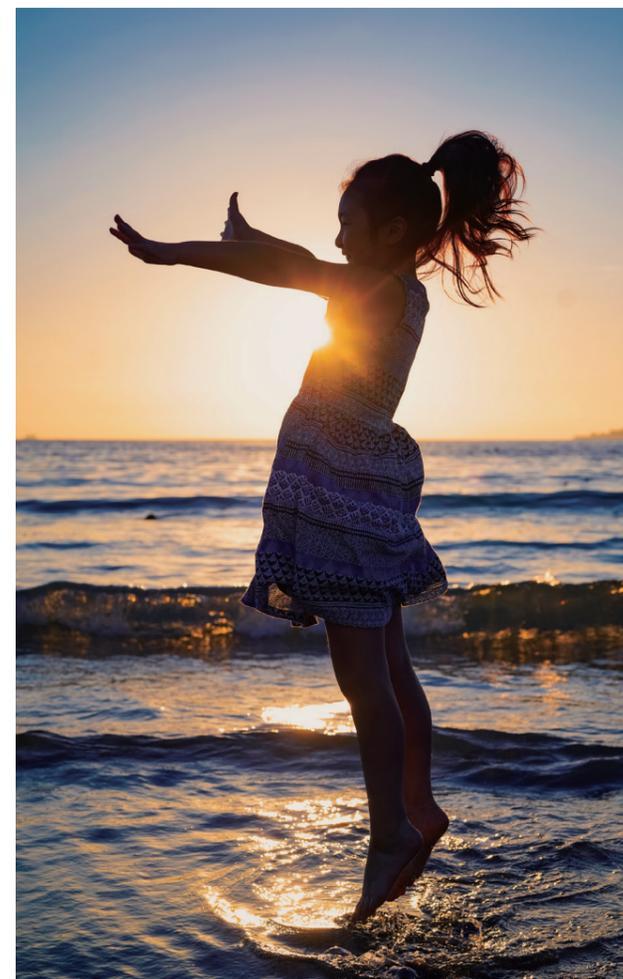
目の前の光景をどう切り取るか、撮影者の意図を伝えるのが構図だ。



草原でジャンプする少年。雄大な風景を表現するため、広い範囲が入るように意識して撮影した。



赤ちゃんをうぶ毛まで写るほどアップで撮影し、臨場感のある写真に。



少女を中心にした迫力のある写真にするため、縦の構図で撮影した。

●画像の編集

表したいイメージにより近づくよう、撮影した写真を編集してみよう。

▶トリミング

写真の一部を切り取ったり、縦横比を調整したりすることをトリミングという。



おいそうな様子を表すために、周囲を切り取った。ケーキの上のお菓子やフルーツが目がいくようになった。

▶明るさや色

明るさや色は、撮影時と撮影後のどちらでも調整することができる。ただし、もとの写真が明るすぎたり暗すぎたりすると、撮影後の調整幅が制限されるので注意が必要だ。



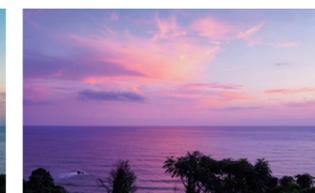
もとの写真



明るく調整。



暗く調整。



色を調整。赤を強くした。